

# 開 Open your mind, 成 Be part of the world!



市立札幌開成中等教育学校 IB研究部 国際交流チーム Newsletter

## トビタテ！留学JAPAN説明会at開成 明日です

No. 7

December 7, 2018

今後の予定

第5期トビタテ！留学 JAPAN 説明会@開成	12/8 13時
シンガポール日本語スピーチコンテスト入賞者発表会12/14(金) @センチェリ-ロイヤルホテル	参加申し込みは12/13迄に、国際交流チームへ一声
ラグビーワールドカップ国際交流入門講座 12/16@ちえりあ	申込みは各自Webで国際交流チームへ一声
豪州科学奨学生国際科学学校募集	校内ㄨ切 12/25(火)
AIG高校生外交官渡米プログラム	校内ㄨ切 1/23(水)
第5期トビタテ！留学 JAPAN アカデミックロング アカデミックテイクオフ	ㄨ切 2019年 1/29 4/22

トビタテ！留学JAPANは、官民が協働し、目標の明確な留学をしっかりサポートしてくれます。やりたいこと、行きたい国、将来の希望に対して確かなプレゼンをする力があれば、留学生に選ばれる可能性がグンと高まります。奨学金を得ての留学ですから、留学中や帰国後も、報告書の作成や報告会等へ出席することが義務付けられます。これらすべてが自分を高める養分となります。トビタテ！の内容に興味のある方、海外留学に関心のある方は、ぜひご参加ください。

●平成30年12月8日(土)13:00~14:30 ●本校1階社会4・5教室 ●持ち物:上履き  
当日は、今年度「トビタテ！」で海外(フランス・アメリカ・オーストラリア)へ派遣された本校生徒3名からの報告、4つの業者からの説明を行う予定です。

### ★地震で延期したラグビーワールドカップ2019国際交流入門講座 12/16 @ちえりあ 3年生以上対象！！

全国7外語大学が主催するこの講座。関西、神田、京都、神戸市、東京、長崎、名古屋の各外語大学が全国外大連合として、基本理念「世界諸地域の言語と文化・社会に関する専門学術を教授研究し、国際社会の一員として世界に貢献しうる人材を育成すること」を達成するべく、標記のような講座を開きます。全国11都市での開催はどれも満員の勢いだったそうです。最後の開催地となる札幌は、地震の影響もあり、まだ定員に満たないとのこと。本校の場合、3年生も高い英語力があることをお伝えした上で、対象にしていたことができました。ラグビーが好きでなくても、国際交流に興味のある生徒は是非、参加をお勧めいたします。

- 日時:12月16日9時~17時 ●場所:ちえりあ(西区宮の沢1条1丁目)
- 申込:各自Webで(国際交流チームへ一言伝えてください。質問がある方も藤本まで。)
- https://www.kandagaigo.ac.jp/s\_summer/place/sapporo/



五年生は、全員無事に海外見学旅行から帰ってきました！ オーストラリア・マレーシアシンガポールの報告は、次回！

### ★シンガポール日本語スピーチコンテスト2018発表会、開成来校、ホームステイ!!

北海道シンガポール友好協会が、7月にシンガポールで開催した日本語スピーチコンテスト〈高校生の部〉上位入賞者3名を、冬の北海道へ招へいします。3名の高校生は、12月14日に札幌で一般のお客様の前でスピーチ発表を行い(もちろん誰でも参加可)、十勝へ移動。その後、12月17日からは一泊二日で開成生徒宅にホームステイをします。18日にはパディとともに本校の授業へ出席。みなさん、ぜひ交流を深めてください。

帰国直前の12月18日(火)16:20からは、全学年自由参加の発表会で開成生徒へスピーチを披露してもらいます。保護者の方も興味のある方はぜひ聞きにいらしてください。

- 発表会in 札幌:日時/12月14日 16~17時、場所/センチェリ-ロイヤルホテル(3Fエレガンス) 申込みは国際交流チームへ
- 発表会in 開成:日時/12月18日 16:20~、場所/校内(希望者は直接ご来校ください)

### ★H31年度豪州科学奨学生 国際科学学校募集

日本の高校生が、豪シドニー大学内物理学財団がシドニー大学において開催する「ハリー・メッセル国際科学学校」で最新の科学知識に関する講義を受けるとともに、他国の高校生との交流を深めることを目的として実施されるもので、文科省からの案内です。

- 対象:現4、5年生(各校1名) ●期間:7/7(日)~20(土)
  - 応募:各校1人(作文・成績等)
  - 校内ㄨ切 12/25(火)
- (詳しくは掲示板、もしくは国際交流チームへ)

### ★AIG高校生外交官 渡米プログラム

高校生外交官としてアメリカの高校生との交流をし、日米両国の相互理解と友好親善に寄与する目的。各参加者は自国についての認識を深め、多角的に米国を学び、多くの活動から経験や知識を深めることで、将来の国際的リーダーとして成長することを目的としています。

- 対象:4、5年生(各校男女各2名計4名まで推薦されます)
  - 期間:2019年7/25(木)~8/6(火)
  - 応募:校内ㄨ切 1/23(水) (作文・学校長推薦)
- (詳しくは掲示板、もしくは国際交流チームへ)

## この夏、かめのり財団による中学生交流プログラムで インドネシアへ派遣された3年Aさんの体験記



関わることができるのか、などたくさんの不安がありました。しかし、実際に10日間という時間の中で、その不安も忘れるくらいインドネシアには多くの魅力があり、非常に良い経験ができました。

特に、首都ジャカルタでのモスク見学、北スマトラのマタウリ中学校への訪問やホームステイなど多くの経験を、「インドネシアは人々のあたたかさに溢れ心安らぐ地」だと感じました。

左の写真は、インドネシア・ジャカルタ中心部にあるモスクです。このモスクは、世界最大級の大きさと言われています。私は、これを見て日本では宗教的なものはあまり見る機会がないので非常に新鮮に感じました。また、このモスクには、カトリック教会のカテドラルと、回教の大教会もモスクであるイスクティ

ラルの二つが立ち並んでおり、キリスト教とイスラム教の二つの宗教を感じられるのは多文化、多宗教と多様性のあるインドネシアだからその魅力だなと強く思いました。

インドネシア・ジャカルタに滞在した後、私が訪れたのはインドネシアの西に位置する「北スマトラ」というところです。この北スマトラでは3日間のホームステイと「マタウリ」という学校との交流を行いました。マタウリは、多くの生徒が通っておりその生徒のほとんどが将来警察や軍隊などの軍事を目指しています。



このマタウリでは、実際に現地の子達に混ざり授業を受けることができました。授業は、インドネシア語で行われ最初は何をすればいいのかわからなくて戸惑っていましたが、先生をはじめクラスの子達が積極的に関わろうとグループ授業を行いインドネシアの伝統文化について教えてくれました。その後も、日本なことについて非常に興味を持ってくれてお互いに言語が通じなくても興味や関心があるだけでコミュニケーションは成り立つということを学びました。また、事前に各自で練習したり準備をしたダンス、けん玉、茶道などの文化発表では先生、生徒、ホストファミリーが拍手や声かけなどで場を盛り上げてくれたおかげで一気に緊張がほぐれとても楽しく交流することができました。

インドネシアに行って、特に印象に残った思い出は、3日間のホームステイです。ホームステイ先は12人家族と賑やかな家庭で、家に向かうと本当の家族のように迎え入れてくれました。特に嬉しかったのは、最初のホストファミリーとの対面式で、私に「Butet」というインドネシアンネームをつけてくれたことです。ホストシスターに聞くに幸せな女の子という意味らしく、本当にこのホストファミリーに出会えてよかったなと思いました。そして、ホストファミリーの殆どがインドネシア語しか話せなく、コミュニケーションがとれるのか心配な部分もあったけれど、ボディランゲージや英単語を使うことで、言語や文化は異なってもコミュニケーションの取り方はいくつもあるなと改めて感じました。また、日本語にもとても興味を持ってくれて、お互いに日本語、インドネシア語の交流をすることができました。

ホームステイ先での生活は、ホストシスターと過ごすことが多く、学校から帰るとバイクに乗ってさまざまな様々なところへ連れて行ってくれ、インドネシアの生活に直に触れることができ、とても新鮮でした。

インドネシアには、綺麗な海、山などの自然、モスクなどの宗教・文化的な場所など様々な魅力がありますが、今回の研修を通して一番の魅力はインドネシアの人々にあると感じました。多様性のあるインドネシアだからこそ、礼儀や挨拶、行動の1つ1つに人と人との繋がりを大切に「あたたかさ」というものが生まれるのではないかと感じました。また、言語が共通ではなく異なる言語だからこそ、コミュニケーションの取り方を大切にするのは異文化理解の上で非常に重要なことだと考えました。日本人は、古典的なことから正しさを気にしてしまい堅苦しくなってしまうことで「愛してる」などと言った言葉には羞恥心を感じ消極的になることが多いけれど、インドネシアの人々は「I love you」を躊躇なく言っていたり羞恥心を感じさせないあたたかい接し方でした。多様性を理解することが求められるインドネシアでは、分かりやすい言葉や単語、日本人が羞恥心を感じるようなストレートな言葉を積極的に使い「伝える」ことを大切にコミュニケーションをとることで異文化理解へつながると感じる事ができました。また、インドネシアの様に日本も様々な異文化をより理解し、より多くの人たちとそして世界と繋がることのできる国になってほしいと思います。そして、そのために私もコミュニケーションを大切に国際交流を積極的に行うことで異国の人に「日本人はみんなあたたかい心を持っている」と思われるような人の一人になりたいと思います。



## Circle the World 2018

Circle the World was held at Odori High School on 10th November. ALTs in Sapporo prepared different workshops and activities for high school students. 4 students from Kaisei shared their exchange experience of the Tobitate programme as well. We had a lot of fun there!

本校からは4人が参加。とても楽しい時間を過ごしました。また本校の「トビタテ！」経験者から、他の市立高校生徒への報告会も行われました。開成生、大活躍！

コミュニケーションに自信のなかった私でも、身振り手振りをたよりに簡単な話をする事ができ、とても楽しかったです。一方で、今回サークル・ザ・ワールドに参加したことで課題がまだまだあることに気づかされました。

第1に英語力です。外国の人と話す時に自分の考えてることを思い通りに伝えられなかったり、他の高校生の英語が流暢でたくさんの外国の人とコミュニケーションをとっているのを見ると、まだまだ自分の英語力が足りないことを実感させられました。また私を含め今回の参加者に比べ、外国の方々は、はるかに積極的で、私のグループでもALTを中心に、というよりもALTだけで会話が進んでいるような状況でした。そのため私は外国の方のような積極性を身につけ、誰にでも気さくに話しかけられるように努力しなければならぬと感じました。



## 3年 A・E

誰も知り合いがいなかったもので、自然と一人で外国人とコミュニケーションをとらなければならない環境におかれていたことが、私にとって今回の参加が有意義な経験となりました。ALTの方々は気さくな方ばかりで、英語での

